

衣服の購入と処分との関連について

○加來卯子* 樋泉淑子** 中川早苗*³

(* 西南女学院短大, ** 光華女子短大(非), *³ 奈良女大生活環境)

【目的】1年間に購入される衣服数は処分数を上回っており、家庭内の衣服数は増加の一途をたどっている。しかし、これらの衣服の中には十分着用可能であるにもかかわらず収納されたままの衣服も少なくない。死蔵衣服を着用しない理由には、流行遅れ、好みの変化やサイズの不適合など様々な要因が考えられるが、合理的な衣生活を営むに当たっては死蔵衣服をできる限り少なくすることが望まれる。そこで本研究では死蔵衣服が生まれる一因と考えられる購入の仕方により人々をタイプ分けし、処分の実態や死蔵衣服への意識などとの関連を考察した。

【方法】九州地区および関西地区に居住する18歳以上の女性を対象に、平成6年11月1日～11月30日、配票留置法により質問紙調査を実施した。配布数864票、回収率72.6%であった。主な調査項目は1年間の衣服購入数および処分数、衣服の購入に関する意識、死蔵衣服数、死蔵衣服を着用しない理由、死蔵衣服の処分方法などであり、クロス集計、因子分析、クラスター分析により分析を行った。

【結果】死蔵衣服数は世代が高くなるほど増加する傾向にある。死蔵衣服を着用しない理由については若年層に色・柄、デザインが気に入らなくなったから、飽きたから、中高年層にサイズが合わなくなったからと答える者が多い。死蔵衣服の処分については若年層に比べて中高年層に手元に置いておきたい傾向が見受けられる。衣服の購入に関する意識について因子分析を行ったところ衝動買いや流行に関する因子など5因子が抽出された。さらに得られた因子得点をもとにクラスター分析を行い、人々を購入の仕方によりタイプ分けした。タイプ別にクロス集計を行った結果、衣服購入数、死蔵衣服を着用しない理由の間には関連がみられた。